

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070800869		
法人名	(株)エレガンス福岡		
事業所名	グループホーム愛・あい		
所在地	〒813-0043 福岡市東区名島3丁目29-5		
自己評価作成日	平成22年8月23日	評価結果確定日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当GHは地域密着型サービスであることを自覚し「皆で入居者様とその生活を支える」ことを基本としている。その基盤として、入居者様と家族、医療福祉関係者、地域の人々が相互にとって身近で親しい存在として関わり合うことの出来る環境作りに努めている。その関係性の中で、入居者様の安全と安心を保証しまた入居者様が主体として自己の生活のリズムを保ち自由に疑問や意思を表明できるよう、穏やかでリラックスした空間づくりにも配慮している。最も身近な存在である介護職員が心身ともに健全な状態で関わることをできるように個々の職員の特性や生活を大切にしたい働きやすい職場を目指している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心部から、都市高速バスを使用して20分圏内という立地条件に加え、名島水上飛行場跡や名島城跡などの史跡も残る、新旧が交差する住宅地に位置している。長年にわたり「利用者のあたり前の日常生活の継続」を支援し続けることを主としている。日々の散歩コースや行きつけの商店の利用、事業所内のナチュラルな装飾など、一つ一つが利用者の「思いや希み」に寄り添った「あたり前の日常生活の継続」支援へと繋がっている。近隣地域からの入居者が多く、地域の方々及び利用者同士が馴染みの関係であり、自治会との連携も強く、住み慣れた生活環境・生活圏域の中で、安心して暮らし続けることができる。今後とも、馴染みの地域の中であって、あたり前の日常生活の継続支援が期待できる事業所である。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和する。又、何時も目につく場所に理念をかかげている。	昨年の外部評価受審後に、理念の見直しが行われている。既存の理念をもとに、カンファレンスにて協議・検討を行い、地域を更に意識した理念が作成されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連絡物を廻したり地域の方との会議などを定期的に行っている。又、地域の廃品回収や清掃に参加している。	自治会との連携の基、地域夏祭り等の行事への参加、清掃活動や廃品回収、子供会の子供たちの来訪、地域商店の利用など、日常的な地域の方々との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し認知症について勉強会をしている。家族には来設時、認知症やその支援方法について説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で毎月の行事報告を行ったり入居状況話したりしている。	関係者を招いて、2ヶ月毎に開催している。事業所の状況や活動報告、認知症についての勉強会、地域情報の収集、地域包括支援センター職員から制度等についてのレクチャー等、多岐にわたる意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員に会議への参加を依頼し会議等で協力関係を築きように取り組んでいる。保護課の担当職員の定期的な面会がある。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加がある。また、保護課担当職員の定期的な来訪、必要時に消防署職員や警察官の来訪など、行政等との連携へ取り組んでいる。	行政等からの連絡事項が主としてメールにて行われている現状と今後の法改正等を踏まえて、オンタイムでの情報収集と発信のため、今後、インターネット等の環境の整備への取組みを期待します。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って勉強会を行っている。毎日の業務の中でも常に話し合い実践している。	日常のケアの場面を通じて、様々な身体拘束についてその都度の指導が行われている。昨年は、エレベーターホールにメロディーチャイムが設置されていたが、現在は必要性がないため撤去するなど、その時々を利用者の状況に応じて適切な対応が行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等でスタッフと勉強会をしている。意識的、無意識的な虐待防止の為に、ケアや関わり方の方法について随時話し合いを行っている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議において地域包括センターの職員より説明が行われ、会議等でスタッフに報告し勉強会を行っている。	運営推進会議時を利用して、地域包括支援センター職員より、制度等についての説明への取組みがある。また、運営推進会議の会議録とともに制度等についての資料を家族へ送付するなど、情報発信が図られている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前に関係機関より情報収集し入居者様、ご家族様と面談を行い、不安や疑問点が解消できるよう話し合いを行っている。退居時にも主治医の意見を聞きご家族とも協議している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関りの中で聞いたり気付いたりしたことを毎朝の申し送り時や会議において話し合いをしている。又、面会や家族会の時にお聞きし、スタッフ会議にて改善に取り組んでいる。	面会時の声かけ、その都度の電話連絡、毎月のホーム便り、及び担当職員による利用者状況を知らせる手紙の送付などを通じて、家族の意見や要望の把握に努めている。出された意見・要望は、申し送り時やミニカンファレンス時に検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告、連絡、相談を細めに行い、気付いたりしたことを毎朝の申し送り時や会議において話し合いを行い改善に努めている。	月1回のカンファレンスやその都度のミニカンファレンス、申し送り時などを利用して、職員の意見やアイデアを出し合うことができる。また、管理者との個人面談を通じて、職員は意見、要望や思い等を出すことができる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取を細めに行い、適宜職場環境の改善に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっての制限はない。職員の能力や特性に合わせてやりがいを見出せる仕事を任せている	職員の募集・採用にあたっては、何らの制限等は一切行われていない。各種、資格取得に関してのシフトを考慮するなどの取組みがある。また、飾り付けの得意な職員にホーム内の飾りつけを主として関わってもらうなど、職員の得意分野を活かす取組みがある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様に対する接遇や尊厳の保持について実践されるように常日頃から指導している。	行政等で行われる講話に参加し、職員会議時に報告を行うなど、職員の人権意識を喚起する取組みがある。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種勉強会への参加を募ったり視覚取得の為に勉強会を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の会議や交流を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学やこちらから訪問し面談を行いコミュニケーションを図り要望を聞くようにしている。又、入居後は話し合う機会を多くつくり、本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族との面談を行い、不安や要望などを聞き相談に応じている。入居当初は蜜に電話連絡を行っている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとってどのようなサービスが必要か本人、家族と一緒に考えて対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であると言う気持ちを持ち尊敬、感謝を忘れず日々の生活の中でも相談したりアドバイスをもらっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に御家族と連絡を取り協議して決めている。家族会や誕生日会等と一緒に参加でき楽しめる雰囲気作りに努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来所は自由であり、来所を歓迎することでその関係が継続される様に努めている。又、電話の取り次ぎを行っている。	近隣地域からの入居の利用者が多く、精神的な不安はない。利用者同士が入居前からの馴染みの関係であったり、行きつけの商店の利用など、以前からの生活圏での引き続きの生活が継続されている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを大切にしている分係わり合いが少ない方々もいる。同じ時間を共有し歌やレクリエーション、外出、散歩等で関係を深めるように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居時の面会、通夜、葬儀への参列を行っている。御家族とは手紙や電話で相談を受けている。又、ホームに立ち寄られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で本人の意向を把握出来るよう努めている。過去の生活歴に思いを巡らせ毎月、全入居者様のカンファレンスを開催し職員が共有出来るよう努めている。	利用者の話し方や仕草などから、利用者の生活歴(主として仕事内容)を、日々のかかわりを通じて利用者の思いの把握に努めている。把握した生活歴や思い等は、センター方式の様式に記入し、情報の共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、御家族より状況提供して頂いたり日々の関りの中で本人様より伺いスタッフ間で共有出来るように努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録、カンファレンスを基に日々の様子観察を行い、見直すことで現状把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族、主治医の意見を聞きカンファレンス、スタッフ会議で総合的に協議し介護計画を作成している。	月1回のカンファレンスやその都度のミニカンファレンス、申し送り時に職員の気付きを出し合い、モニタリング・見直し・再作成が行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活状況を記入し、変化がある場合はスタッフ間にてカンファを実施し評価しながら介護計画に反映させている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食の同行を行ったり、カルチャースクール参加、訪問理美容の提供をしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署に要請し避難訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向によるかかりつけ医に受診出来るよう支援している。往診も受けられるか、受診時は家族の協力もある。	ホーム協力病院が在り、24時間医療連携体制が整っている。いままでのかかりつけ医への定期受診は、家族対応である。急変時の受診や協力病院の主治医の指示での入院時等は、ホームでの対応である。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医又は看護師と24時間相談を受けられる体制をとっている。歯科、皮膚科、眼科の往診もある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室のソーシャルワーカーや医師、病棟看護師と相談している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、御家族に意向を伺い希望に応じられるよう支援している。	日々のかかわりを通じて、利用者の意向の把握に努め、センター方式の様式へ記入し、情報の共有が行われている。全家族の意向の把握にまでは至っていない。	運営推進会議時や家族会時等を利用して、アンケート方式で全家族の意向の把握に努められ、利用者本人の終末期に対する意向等もふまえて、更なる利用者の尊厳ある暮らしの支援への取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを元に連絡や対応が行える体制を整えている。又、避難訓練を行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において災害時の協力要請を行っている。	消防署の立会いのもと、定期的な避難訓練の実施がある。運営推進会議時等を利用しての、非常時における地域連絡網の体制づくりや避難訓練への協力などの取組みがある。	運営推進会議での要望も挙がっているように、緊急時の安全な避難・誘導の確保のためにも、ソフト・ハード両面での検討及び取組みに期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については誇りやプライバシーを損なわないよう配慮している。	時・場所・場合をわきまえた声かけ、利用者の出来ることを見守りながらの支援、受容的な態度での対応など、理念に基づいた支援が見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意見を大切に分かりやすい言葉がけをしている。自分で決めることが出来るよう支援している。又、表現するのが難しい方は表情や行動の変化に気配りし気持ちを組み取るようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターン、リズムを把握しながら自らの行動を優先し希望にそって支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望時、訪問理美容を利用して頂いたり、行きつけの理美容に行かれたりしています。入浴時の髭剃りや女性の方でお化粧を希望される方は支援したり、毎日の服装も本人の決定を優先している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みを普段の会話の中で聞き、メニューに取り入れている。下ごしらえ、盛り付け、配膳、味付け、後片付け等一緒に行っている。	過去の献立や料理の本等を参考に、職員による2週間分のメニューの作成と各ユニットでの調理が行われている。調理の下ごしらえや食器洗い、テーブル拭きなど、利用者と職員が協力して行っていた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、必要に応じ医療機関との連携のもとに水分量や内容もチェックしている。食事もキザミ食やミキサー食も提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝後の口腔ケア、義歯洗浄、うがいを行っている。又、必要な方には歯科医による口腔ケアの支援も行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握しトイレ誘導を行ったり、夜間はPトイレを使用しながら排泄の自力に努めている。	排せつチェック表にて利用者のパターンを把握し、利用者の様子等により声かけ・誘導が行われている。ほぼ全員の利用者が、感覚及び動作の両面において自立している。利用者のその時々状況を勘案してカンファレンスにて検討するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを作成し水分補給、散歩、運動、腹部マッサージ等を行い自然排便を促している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴可能で順番は決めているが本人の希望に合わせて柔軟に対応している。	入浴準備は毎日しており、基本は週三回の入浴実施である。入浴動作が困難な利用者に対して、職員2名にて対応するなど、安全面への配慮がある。入浴後のパックや化粧水等の使用など、利用者のこだわりへの支援へもしっかりなされている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床時間も個別に対応し日中も居室で休まれたり、ソファで傾眠されたりしている。日中は無理のない程度に運動を促し夜間安眠出来る様努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋を経過記録のファイルにとじいつでも見れるようにして、変更時には個人カンファに記入したり申し送りで伝え共有している。疑問はかかりつけ医や薬剤師に相談している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中での特性を活かし個別に声かけしている。家事やレクリエーション、外出等で気分転換の支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は毎日行っている。買物同行、ドライブ等、出来るだけ一人一人に合った外出を支援している。	近隣公園への散歩、地域商店への買物、その都度のドライブや商業施設へのショッピングなど、利用者の希望や状況に応じた取組みがある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理の出来る方は、小額を所持されており文具、菓子類、お化粧品等購入されている。管理の難しい方は預かり金の中からその都度渡して購入して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるよう支援している。手紙は書かれるとポストに投函している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の花や壁に貼り絵等入居者様と一緒に作った作品を飾っている。	エレベーターホール、廊下、リビングなどの共有スペースは、季節を意識した飾り付けがさりげなくなされている。利用者は、自然とリビングに集い談笑している姿から、居心地のよさが伺える。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食堂、居室を利用して独りで過ごしたり、気の合った入居者様同士過ごせるよう工夫している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家財道具を搬入して頂き身体状態に合わせて配置を行い、好みの物を飾ったり安心して過ごせるよう工夫している。	各居室には、箆笥や衣装ケース、趣味の道具、写真などが持ち込まれており、人となりが伺える居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が作成したカレンダー等を壁面に飾って、達成感を味わって頂いている。入居者様同士での会話にもつながっている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		